第２回三郷市まちづくり委員会

会議録

会　議　録

会議の名称		第2回三郷市まちづくり委員会	
開催日時		令和元年6月27日（木）	開　会　14時00分 閉　会　15時30分
開催場所		市役所6階　全員協議会室	
出席者	委員氏名	（出席人数：12人） 豊田幹雄委員（委員長）、鳫咲子委員（副委員長） 山﨑治委員、渋谷かつ枝委員、深井えり子委員、森正見委員、 宮田久美子委員、髙橋正則委員、齊藤洋子委員、山田博道委員、 酒井英治委員、遠藤正毅委員 （欠席人数：3人） 戸邊修司委員、安晝和己委員、竹内嘉洋委員	
	説明者 その他	（出席人数：17人） 渡辺企画総務部長、田中財務部副部長、森市民生活部長、 髙橋障がい福祉課長、妹尾子ども未来部長、秋本環境安全部長、 小菅産業振興部長、長本建設部長、松本まちづくり推進部長、 豊田会計管理者、藤丸水道部長、矢口消防次長、肥沼学校教育部長、 益子生涯学習部長、増田議会事務局長、羽ヶ崎農業委員会事務局長、 大石監査委員事務局長	
	事務局	（出席人数：8人） 企画総務部　日暮理事兼副部長、企画調整課　狩集課長、 大久保副参事兼課長補佐、杉山係長、島根主査、古庄主任 ㈱地域計画連合　相羽主任研究員、柳坪主任研究員	
傍聴人		0名	
議題・報告事項及び会議の公開又は非公開の別		公開	
次第		1　開会 2　委員長あいさつ 3　議題 (1)　人口推計の基礎分析について (2)　基礎調査結果について (3)　基本構想について 4　その他 5　閉会	
配布資料		次第 資料1　人口推計について 資料2　社会動向 資料3　基本構想（骨子）について	

	参考資料　第４次総合計画基本構想（第４次総合計画より抜粋）

議　事　の　経　過	
発言者	発言内容　・　決定事項
事務局	1　開会 ・定刻となりましたので、ただいまより第５次三郷市総合計画等第２回まちづくり委員会を開催させていただきます。議事に先立ちまして、本日の会議資料を確認させていただきます。まず１枚目に次第がございまして、資料１と３が差し替えとなりましたので机上に配布させていただきました。 ・開会にあたりまして、本委員会の委員長である豊田委員長にご挨拶をお願いいたします。 2　委員長挨拶
委員長	本日は、お忙しい中、第２回三郷市まちづくり委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。 本日の議題は「人口推計の基礎分析」「基礎調査結果」「基本構想」についてです。 議題の「人口推計の基礎分析」「基礎調査結果」については今後の三郷市の人口推移の動向や、市を取り巻く社会状況、市に対する市民の意向等を踏まえ、今後どのようなまちを目指してゆくのかという「基本構想」の骨格つながり、今後計画策定を進めていく上での、基礎部分となる重要な事項です。 委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。
事務局	では早速次第３の議事に入らせていただきます。議事進行については、三郷市まちづくり委員会条例より、本委員会の委員長である豊田委員長にお願いいたします。
委員長	それでは議事に入る前に委員の出席状況について、事務局より報告をお願いいたします。
事務局	本委員会につきましては、三郷市まちづくり委員会条例の規定による定足数を、本日３名の委員がご欠席ですが、定足数に達していることをご報告いたします。
委員長	ただいま事務局より報告がありましたように、本日の委員会については成

	立しておりますのでよろしくお願いいたします。 　それでは、傍聴についてですが、本日の申込状況はいかがですか。
事務局	本日の傍聴はございません。よろしくお願いいたします。
委員長	本日の傍聴はないようですので、これで進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
	3　議題 （1）　人口推計の基礎分析について
委員長	それでは次第に従って進めさせていただきます。（1）人口推移の基礎分析について。そして（2）の基礎調査結果について、これは関連がございますので、事務局より一括にて説明をお願いいたします。
事務局	それでは（1）人口推移の基礎分析について、（2）基礎調査結果についてご説明させていただきます。 　（1）の人口推移の基礎分析について。今回ご提示した資料1、人口推計につきまして、こちらはたたき案となります。委員の皆様には推計の見せ方や、推計に当たって他に考えられる要因はないかなど、ご審議をいただければと考えております。また（2）の基礎調査結果といたしましては、資料2をご提示させていただきましたが、1点目として事務局で調査をした社会動向。2点目として平成30年度に市で実施しました市民意識調査結果からの市民意向。3点目として庁内各課にて第4次総合計画の現状と課題を調査し、結果をとりまとめたもの。4点目としては、これら調査結果を踏まえて、三郷市に求められている事項をまとめたものとなります。詳細については、支援業者よりご説明させていただきます。
事務局 （支援業者）	今日は皆様の机上に差し替えの原稿を用意いたしましたので、資料1をご用意ください。数字の結果については、事前の資料と全く同じなのですが、途中の説明プロセスで若干分かりづらい部分や文字の不都合がありましたので、直させていただいております。 　最初に1ページ目ですが、今回の人口推計の手法としては、一般的に使われますコーホート要因法という手法で行っております。これに関しましては、ある一定の年度の数値を用いており、この場合は平成31年1月の人口を元に、将来に向かって年齢が加齢していく、出生・死亡・転入・転出という要素を考慮いたしまして、将来の推計を行う手法となっております。 　今回の推計で特殊な要素が2つありますのでご紹介します。1点目は、町丁目別にコーホート要因を用い推計をしているという点です。2点目は、平成31年と平成28年の住民基本台帳人口のデータを使い、生残率は国立社会保障・人口問題研究所が平成29年に示した三郷市の生残率を使っています。

出生率に関しては、国立社会保障・人口問題研究所が示した子ども女性比を使わず、5歳階級別の国全体の出生率を元に、三郷市様の合計特殊出生率の違いを補正した上で5歳階級別に三郷市独自の出生率を求め、その数値を適用して推計したのが特徴となっています。

移動率に関しましては、皆様の市の場合、三郷中央駅周辺地区や、インターA地区の開発人口が非常に多いので、単純に推計すると膨大な人口になってしまうので、補正をしています。

2ページ、生残率・出生率の話です。生残率とは、今回推計の場合は、次年度にどれぐらいの方が生き残るかを、国立社会保障・人口問題研究所で示した「生残率」をもとに推計しています。ここまでは一般的な推計手法と同じです。

出生率は、国立社会保障・人口問題研究所の示す手法は、15～49歳の女性の人口に対して、そこから5年間で生まれる子どもの人数の比率である「子ども女性比」を使うのですが、現在、いわゆる団塊ジュニアの世代、45～49歳の人が最も多くなっています。これらの人は、人口1,000人あたりで5年間に生まれる子どもの人数が非常に少ないのが特徴です。

わかりやすい例で示しますと、日本全体で生まれる子どもの人数も、3年前あたりまでは100万人台をずっと維持していたのですが、この2～3年で急に減り始め、この間、示された速報値では、平成30年で91．8万人となりました。これは、日本全体でいわゆる団塊ジュニアの方の年齢が高くなり、出生の勢いが落ちている部分が大きく影響されているためです

4ページの移動率ですが、こちらは過去の推移を元に推計を行います。なお、国立社会保障・人口問題研究所の方でも、三郷市全体の値は出ていますが、今回の推計は町丁目別で実施していますので、国立社会保障・人口問題研究所の数値は使用しません。

なお、地区別でみると、例えば中央1丁目から5丁目の三郷中央駅近くの地区については、非常に人口増が大きい。そのままの増加率で推計するのは適切でないため、転入・転出を0とした封鎖推計という手法を用い、社会移動を1回ゼロにした推計を行い、社会移動を相当抑えた比率を別に設定したりした推計を行うなど、今回はいくつかのパターンを提案しております。このような手法は、人口増が大きい三郷中央地区だけでなく、インターA地区につきましても同様のことが起きますので、適宜補正しています。

5ページ目、推計のパターンについては、全部で7つのパターンを提案しています。

合計特殊出生率については、市の最新の数値は1．37ですが、これから市が子ども施策を頑張ることによって、1．5ぐらいに上がる想定と、もっと頑張って1．8まで向上しようという2通りの目標を設定しています。

また、三郷中央地区など、これから住宅がどれぐらい建つのかを調べる手法として、建築確認申請のうち、集合住宅がどれくらい計画されているかを把握することで、今後1～2年間これぐらい家が建ちそうだということを予

想して、その分の人口増を見込んでいます。

三郷中央駅周辺につきましては、人口の伸びを考えると、人口増は少しずつ収束していきますが、来年・再来年ですぐに止まることはなさそうですので、やはり開発人口を一定数見込んでいく工夫が必要です。

また、インターA地区については、三郷中央駅周辺のようにたくさんの建築確認申請が出ているわけではないので、いくつかの条件を設定し、以下の7つのパターンを設定しました。

パターンAについては、一番すべてのことがうまく行くパターン。これは将来の合計特殊出生率が1．8まで向上し、三郷中央駅周辺は開発人口に加え、その他の社会増も一定程度見込み、インターA地区については、開発人口を3，000人見込んでいます。

パターンBは、三郷中央駅周辺の開発による人口増分以外は一切見込まない封鎖推計としています。

パターンCは、合計特殊出生率の将来目標も1．8でなく、1．5にして、目標年度まで、毎年0．02か0．03ずつ上昇していくパターンです。

パターンDは、三郷中央駅周辺の開発による人口増分以外は一切見込まない封鎖推計とし、合計特殊出生率はパターンCと同様です。

パターンEからは、人口が増えないような設定になっています。

7ページに全てのパターンの想定条件の一覧表を整理したのでご覧ください。

8ページ目は開発人口です。

ここでは、過去2年の建築確認申請をもとに将来の人口増を予測しています。申請の戸数に市の世帯人員の平均値である1世帯あたり2．21人で計算すると、三郷中央駅周辺では少なくとも760人の人口分の集合住宅が、その他の地区では1，547人と見込まれます。また、中央4丁目とか5丁目では、過去2年間の建築確認申請ではあまり戸数はないのですが、令和1年1月から6月まででこの2年の建築確認申請の戸数より大幅に人口が増えていますので、そこは補正しています。

開発人口の設定は、三郷中央駅周辺では合計で2，870人の開発人口を見込んでいます。インターA地区については、3つのパターンを想定し、開発人口が3，000人、開発人口が1，700人、開発人口を見込まないパターンを想定しています。

将来推計の結果については、今後7年から10年後にピークが来て、それ以降は落ち始めるということは共通です。ただ、条件によって落ち始める年がどこになるかというのは若干違っています。

前回の人口ビジョンと比べると、三郷中央駅周辺が計画人口よりも増えていますので、前回の推計と比べるとどのパターンも増えています。

12ページからは各パターンの年齢階層別人口です。どのパターンも高齢化率は高くなっていきます。ただ、人口が増えるパターンほど高齢化の比率は低くなり、年少人口の比率は高くなる傾向があります。

最後に20ページ、令和14年の人口ピラミッドをご覧ください。どのパターンでも人口が多いのは団塊ジュニアの世代で、この時点では年齢が55～59歳となっています。

ここはどの人口ピラミッドも同じですが、最初のパターンＡでは、若い世代で1つ小さな「こぶ」が出来るのですが、だんだんアルファベットが進むに従って、その「こぶ」がなくなり、一番下は下が細くなっていく形になります。ただ、日本全国の傾向では0～4歳は人数が少なくなるため、大幅に細くなりますが、三郷市は0～4歳の人口は国全体ほど少なくないので、ほぼ「まっすぐ」に近い形になります。

次に資料2について説明します。

最初に社会動向をまとめました。大きくは8点です。最初は人口減少・少子高齢社会です。今の三郷市の人口の状況は、例えば三郷中央の駅前だけ見れば日本で言えば昭和40年代の人口のモデルです。三郷市全体では、平成一桁ぐらいのモデルですが、三郷団地だけ見れば、今の地方の町の人口モデルということで、街の中によっていろいろな人口モデルが混在しています。但し、全体的にはやはり人口は減っていくし、世帯数も減っていく時代にこれからなっていくという点が1点目です。

次は子どもの問題をあげています。三郷市の特徴としては、0～4歳の転入が非常に多い。東京23区では、0～4歳は平成30年で約6，000人転出超過していますが、三郷市には百何十人が転入超過となっていますので、受け皿の1つとなっています。

ただし、貧困など新しい問題も出てきているという部分が2番目です。3番目は持続可能な開発目標、ＳＤＧｓについてです。これは開発目標が17項目ありますので、それを踏まえて考えていく必要があるのではないかということです。

4点目は安心・安全に対する取り組みの話。5点目が生きる力ということで、いじめなどの不登校のお話。6点目が情報通信技術のお話。7点目が多様な共生の実現、最後は健全な財政運営の話です。

4ページから7ページについては、市民意向調査の結果です。

皆様の自治体の特徴を1点だけ紹介すると、三郷市の住み心地という点で、この10年間で住みやすいという方が非常に多く、かつ本市のイメージが良くなったと回答した人が多いのが特徴です。通常のアンケートでは、変わらないが一番多いのですが、三郷市は良くなった、どちらかというと良くなったという方が多いのが特徴で、特に三郷中央駅周辺で割合が非常に高いのが特徴となっております。

次に8ページからが課題整理です。詳細の説明は省略します。

10ページからは市に求められるもので、9点整理しました。1点目は三郷市で子どもを産み、育てて良かったと思える仕組みづくり。2点目は災害に対する備え。3点目は子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域社会。4点目は活気ある地域拠点の整備とそれを結ぶネットワークの強化。5点目は

自然と調和のとれた住環境の実現と自然共生意識の向上。6点目は人と人とのつながりのある交流や笑顔を作る触れ合い。7点目は子どもが生き生きと学べる場の充実。8点目は効果的、効率的な地域経営の推進。9点目はわがまちに住む誇りの醸成。これら調査結果を踏まえて、三郷市に求められている事項をまとめたものとなります。

委員長　ただいま事務局から説明をいただきました。資料1については、国が持つデータに三郷市の状況、見通しの情報を加えて推計したもののようです。

資料2については、社会動向・市民意向、事務局で調査をした報告となっております。また、課題整理は、庁舎内各課にて第4次総合計画の現状と課題を調査し、結果をまとめたものになっております。

10ページから、三郷市に求められているものについては事務局で調査をした社会動向・市民意向・課題整理の結果を受けてとりまとめたものとなっているようです。このことについて、ご質問やご意見等ございましたらお願いします。

森委員　開発地区による補正は三郷中央駅周辺とインターA地区以外に、今後10年の内に大幅な人口の動きをする地区はあるのでしょうか。

事務局　今回の人口推計では三郷中央駅周辺とインターA地区以外は想定しておりません。

酒井委員　パターンAの将来人口ピラミッドで、0から4歳児の人口が、その前の5歳から9歳に比べて減っているのはなぜですか。

事務局　基本、子どもの年齢別人口は、パターンAでは増えたり減ったりするので、たまたまその年度で減るサイクルになったものと考えられます。

委員長　他にいかがでしょうか。人口推移は予想しきれないところがあるので、これについては非常に綿密に推計をしているのかなと、私は感心をしました。

山田委員　我々は人口推計の専門家ではないので、専門家の方から、これは妥当であるとかなどの視点があった方がよいと思います。

また、5ページを見ていると、パターンAの表現の仕方で「大幅に加え」とかありますが、見方によっては意図的にうまくなるように調整しましたという表現になっているように感じるため、根拠を明確にするなど、表現の調整が必要と考えます。

事務局　何も補正を行わないで、通常のコーホート要因法で推計すると、例えば中央1丁目の将来人口は10万人程度になってしまいます。一方、土地の面積

を考えると、中央1丁目に10万人分のマンションが建つことは難しいと考えます。
　そのため、三郷市のように人口の増えているまちでは、推計にあたって多用な要素を考慮して補正をしなければならないのが実情です。但し、文章はより適切な表現に調整できればと考えます。

委員長　私たちは専門家ではないので、どこかの専門家の助言により、このような計算方法を採ってきたかを付け加えておくと、私たちでも判断ができるのではないかと思うのですが、事務局いかがですか。

事務局　人口推計については、基本的に国立社会保障・人口問題研究所でやっている手法が全国的には一般的な人口の推計の方法だということになっています。なお、国立社会保障・人口問題研究所で行う計算の方法については、基本的にはコーホート要因法です。
　先ほど説明した通り、基本的には社会保障・人口問題研究所の手法で将来人口を計算することが一般的だと思われますが、三郷市においては、中央地区などで、ここ数年間でかなり人口が伸びていることから、そのまま計算すると未来の人口について、現実から大きくかけ離れた人口になるので、補正をさせていただきました。

酒井委員　前回の人口推計と変更した部分を教えてください。

事務局　前回のビジョンでは、中央地区、インターA地区の補正は行いましたが、実際の人口の伸びと比べると、補正は小さなものでした。
　そのため、今回は大幅な上方修正を行った次第です。

酒井委員　前回の推計と今回の推計をみると、前回の推計より1，500人ほど多いのですが、中央地区の人口が爆発的に増えた割には、現時点では差が見えなかった理由は何かあるのでしょうか。

事務局　理由としては、前回も中央地区の補正はかけていますが、その補正のかけ方が少なかったことが、現時点での人口の差となっています。今後、年が進むに従って差が大きくなってくると思われます。

副委員長　今回7つのパターンで推計をしましたが、このまま人口ビジョンとしても7つの案を示すつもりですか。

事務局　事務局としては、多用な要素を踏まえながら7つの案を提案していますが、今後はどの方法が一番三郷市の人口ビジョンとして合ってくるものなのかを併せて考えながら、2つぐらいに絞っていければと事務局では考えていま

	す。
委員長	だいぶご意見も出尽くしたかと思いますが議題の（1）（2）についてはこの辺で質疑を閉めさせていただきますがよろしいでしょうか。
委員長	続きまして、(3) の基本構想について事務局より説明をお願いいたします。
事務局	基本構想について説明させていただきます。 最初に基本構想骨子についてご説明します。資料 3 をご覧ください。まず基本構想につきましては、現行の第 4 次総合計画では、まちづくりの理念、将来都市像・人口フレーム・土地利用・施策大綱で基本構想は構成されています。第 5 次総合計画におきましても、第 4 次総合計画を継承し、同じ項目によって構成される基本構想としたいと考えております。 基本構想におけるまちづくりの理念といたしましては、事務局のたたき案として現行の第 4 次総合計画期間において本市が成長してきた部分を捉え、第 5 次の総合計画期間においても同様に成長していくものと考え、現行の基本構想と同様にまちづくりの理念は「自立都市みさと」「活力都市みさと」「交流都市みさと」としております。また、将来都市像としましても、現行の基本構想を継承し、「きらりとひかる田園都市みさと～人にも企業にも選ばれる魅力的なまち～」としています。 次に人口フレームにつきましては、先ほど人口推計で説明をいたしましたが、計画人口は基本構想終期で 14．7 万人としてございます。 次に土地利用における将来都市構造につきましては、現在都市デザイン課で策定を進めております、仮称三郷市都市計画マスタープランと併せて検討してまいります。 次に施策の大綱につきましても、まちづくりの理念、将来都市像を継承することから、大きく構成は変えないことを想定しています。 しかし、現基本構想策定から約 9 年が経過していることから、まちづくりの方針や経営方針につきまして、一部の変更を検討しているところでございます。 この施策の大綱につきましても、先の基礎調査の内容を踏まえまして、委員の皆様のご協議をいただきたく存じます。事務局としては、三郷市においては、子ども施策は非常に力を入れており、その効果もあり、現計画人口を上回る人が既に居住してございます。よって子ども分野で 1 つ方針を固め、子ども向けの福祉サービスや子どもの教育分野等を集約し、まちづくり方針 2 に子どもの分野で新たに 1 つの施策を設けてはと考えております。 なお、それぞれのまちづくり方針について、参考として各方針に関係することが見込まれる分野を例として記載しております。この分野についても、それぞれの視点から議論をいただければと思います。

次に経営方針について、現行では４つの経営方針で構成されていますが、提案としては経営方針を３つに分類したいと思っています。経営方針１として、市民参加の推進や、コミュニティの充実など、市民と行政の関わりの分野とし、市民との連携や郷土愛を深める方向へつなげていくものとして、地域力の醸成といたします。経営方針２として、今後、市の内部的な取り組みばかりでなく、対外的な視点の必要性から、シティプロモーションの推進。民間大学等との連携。国際的な交流など、市の外へのＰＲや、市の外との連携につなげるものとして、まちの魅力向上といたします。経営方針３につきましては、現経営方針４を継承する形で、行財政基盤の強化としたいと考えています。基本構想骨子については以上となります。ご協議のほど、よろしくお願いいたします。

委員長　ありがとうございました。ただいま事務局から説明をさせていただきましたが、基本構想については、第４次総合計画から成長している三郷の現基本構想を継承していきたいというお話があったと思います。

本日議論をいただきたいのは、基礎調査結果を踏まえ、示された基本構想骨子、主に施策の大綱についての事務局案となります。他に将来を見据えたまちづくりの柱となるものがあるかなど、意見をいただきたいと思います。

例えば、埼玉県では大きな方針として、女性が活躍する社会の構想や、稼ぐ力、それから儲かる農業といった視点が掲げられています。こういう視点もあるのではないかというものがあれば、遠慮なくご意見をいただきたいということであります。

また、具体的にこういうことを実施した方がいいのではないかと思う内容でも、意見としてあればいただきたいと思います。また、本委員会には各分野に精通している方がおられますので、先ほど事務局から社会動向の説明がありましたが、専門分野の視点から、現状の動向や今後注目される分野などがあれば伺いたいと思います。

例えば跡見女子学園大学や日本大学の学識の先生や、あるいは国土交通省の皆さん、そしてＵＲ都市機構など、専門の方がここにはいらっしゃると思いますので、そこで忌憚のないご意見をいただけるとありがたく思います。いかがでしょうか。

森委員　自分が思うに三郷に不足していることは、ブランド力が足りないと部分だと思います。ブランド力を上げることで、世の中に情報発信されていくと思われるので、そういう内容も１つ入っていると良いかなと思います。

事務局　ありがとうございます。ご意見をいただいたものにつきまして検討させていきながら、より良いものにしていきたいと思います。

山田委員　行政としてちゃんとやらなければいけないことがあると思っていまして、

例えば高齢者の移動手段を考える際に、最近よく聞く自動運転やＭａａＳ（マース）とかいうものも取り入れて検討することが必要なことだと思っています。

そのため、最近三郷市も加入されたＭａａＳ（マース）の協議会もあるので、ぜひそういう観点を取り入れていただければと思います。

委員長　先ほど説明された施策の大綱の中に入っている部分があろうかと思いますが、事務局いかがでしょうか。

事務局　委員長がおっしゃった通り、施策の大綱のまちづくり方針１で、安全でいつも安心して住めるまちづくりの中で、交通安全というところでもこのような施策について謳っていく必要があるとは思います。まちづくり方針７についても、生活を支え合うまちづくりといったところで、障がい者の支援ですとか、高齢者の支援について謳っているところでございます。

ご意見をいただいたことについて十分に検討していきたいと思います。

山﨑委員　人口推計に関連して、私は昨年度までＰＴＡ連合会の会長ということで取り組ませていただきましたが、その中でとても感じていることは、中央地区の人口増や、その他の地区の人口減により、どうしても学校での児童・生徒の極端な人数の差が出てきてしまうことがあります。

また、それによってそこに配置される教職員の数が大きく変わることで、教育の格差があるという声も聞きます。大規模校になれば教職員の数も多くなる反面、120 世帯ぐらいの小規模校になると、その児童・生徒に対する教職員の数しか配置されないため、何かアクシデントがあった際などに、そこに通っている児童・生徒に対する教育に偏りが出ることがあります。人口が多い場所と少ない場所との差をなくすことは難しいとは思うのですが、学校で言えば立花小、後谷小、前間小あたりの地域の人口増加を促すような施策というものを行政側で講じていただけないものかと思います。

また、非常に急激に増えている大規模の学校では、校庭を使えないとか、使える時間が限られてしまうなどの現状があるので、何かしら極端に増える場所と減っている場所の差を埋める施策があると良いと考えます。

都内から三郷に転入される方に、市の北側には田園地域の緑が多く、静かな場所に転入されてはいかがでしょうかなどの働きかけを、学校までの移動手段の対策と併せ、行うことが必要ではないでしょうか。

委員長　学区の編成については、教育委員会で計画を策定中だと伺っています。

私は三郷の北の方に住んでいて、寂れてきているという話がありますが、15 年前、20 年前は北の方は非常に人口が増えて、前間小学校でさえ 1，000 人を超えていた頃がありましたが、今は全校 140 人ぐらいしかいない状況です。数十年の間にまちの中で人口の浮き沈みはあるが、このよう状況に対し、

何か手立てが必要ではないかという話だと思います。
それに関して事務局、いかがでしょうか。

事務局　三郷市といたしましても、子どもの施策、道路・都市計画・産業・農業・観光、その多方面にわたって、そういったたくさんの施策を講じながら、選んでもらえるまちとなるように第5次総合計画についても十分に考えていく必要があると認識しています。

学校教育部　学校教育部の肥沼です。少し説明をさせていただきたいと思います。
最初に、小規模校でも大規模校でも、児童・生徒数に比例して教員は配置されていますので、子ども1人あたりの先生の数は基本的に同じですが、先生の人数だけ見れば大規模校の方が多いのも事実です。
もちろん、小規模校であればそこで病気になった時の影響力が大きくなるのは事実ですが、基本的に児童・生徒の数に応じて教員は配置されています。小規模校の良い点をあげれば、子どもの人数が少ないので先生たちの目が行き届くという良い点もあります。もちろん、子どもの人数が限られますので、子どもの時にたくさんの子どもと触れあうということになると、大規模校の方がいろいろな個性をもった子どもと触れることはできます。もちろん、子どもの人数が多ければ多いほど教員の目は届きにくくなるため、適正な規模にしていくことが一番望ましいとは思っています。
あともう一つ、学区の変更ですが、例えばAという小学校とBという小学校を一緒にすることになると、学区が大きくなってしまうので、その学校に通うために子どもたちが時間を掛けなければいけないという問題が出てきます。
また、地域の開発に伴い、子どもたちの交通安全の質がなかなか追い付かないという問題も出てきますので、山﨑委員がおっしゃった通り、人口の推移に基づきながら、交通安全等を踏まえて適切な施策をしていくことは必要だと認識しています。

委員長　ありがとうございました。ちなみに私の孫は小規模校にいますが、1クラス20人で、先生と子どもたちが和気藹々と楽しくしているそうです。なお、狭い学校、小さい学校でも大きな学校でも、子どもの心の豊かさはあまり変わらないと私は感じます。他にいかがでしょうか。

遠藤委員　子どもの分野なのですが、新三郷の近くに三郷団地という非常に大きな団地があり、市の人口の約1割程度が集中していますが、三郷団地の中を歩くと、本当に子どもが少なくなったなと実感します。
団地の中には緑も豊かで、小さい公園や大きなグランドもあるため、ここに子育てファミリーが入ってこないかなと考えます。
ただ、三郷団地の場合、間取りの関係もあり、20代、30代の子育てのフ

ァミリーの方が来ていただいたとしても、お子さんが生まれて家族が増えると、退去していくことも見られます。

そのため、地域・エリアの特徴とか特色に応じて施策を考えていただくとよろしいのではないかと思っております。

事務局　ご意見ありがとうございます。三郷団地につきましては、かなり高齢化が進んでいる現状については認識しています。地域の開発等についても、併せて市全体の中で公共施設等が偏らないようにですとか、そういったことを踏まえて考えていく必要があると思っているところですので、今後対策等を打っていく必要があると考えています。

高橋委員　人口フレームによりますと 14．7 万人が 2030 年に見込まれているということで、人口推計というのはとても参考になると思うのですが、このコーホート要因法の特徴というのは、時間的な推移と、世代の差がどう推移をするかがすごく大事な変化の知見だと思います。

三郷市の中で、世代間がこれからどう変わっていくかを見据えて、基本構想を練ると具体的なものが自ずと出てくるのではないかと感じました。

それなので、データを見る時に 1 年ごと 3 年ごと 5 年後がどうなるかという観点と、世代間がどのように変わっていくかということを注視しておくと良いのではないかと思いました。

全く参考になるか分からないのですが、経済産業省がバックアップをして、いろいろ地域を活性化しようという企画を募った時に、今、ふるさと納税というのが税収を上げるためにありますけれども、ものを提供するのではなくて、行政が提案するプログラムをふるさと納税の返礼品として与えるような企画が、昨年か一昨年、非常に優秀な企画ということで提案をされていました。三郷市の魅力というものを、そういうプログラムで与えて、それに対して税収を得るといった方法なども、外部にいる人たちからも資金を得ることも一つ面白いのかなと感じました。

それから、子どもに対するプログラムということで、立場上、私は東京都でタレント発掘事業を行っているのですが、中学生を対象に運動をやっている子たちに、毎年 30 人ぐらいピックアップをして、トップアスリートになるための目標を持たせて、決められた強化と育成を図っていくといったプログラムを行っています。なお、一部の人を対象にしているような印象があるのですが、学校としての目標になることや、各自治体の教育委員会、県としてのプログラムとして、子どもの発掘にもつながっていくという可能性をすごく感じています。

例えば、東京都でもマイナー種目の話ではありますが、3 年後には日本チャンピオンになるような可能性を持った子がいますので、そういう、今、埋もれているような子どもたちを光り輝かせてあげるような機会の提供を市から提供できればと考えます。

委員長	ご意見ありがとうございます。たくさんお話をいただきました。十分にこちらでも検討をさせていただいて、参考にさせていただきたいと思っています。
事務局（企画総務部長）	先ほどいろいろな地域で人口格差があるというお話をいただいたと思うのですが、例えば、今三郷で進めているものに拠点整備があります。例えば早稲田の北の方ですと、スマートインターチェンジを大型化して、将来的にはフル化にしようという構想があり、彦成地区ですと、三郷吉川線沿線で区画整理をしようとか、南の方では南部拠点を作ろうという話があります。 また、先ほどの話のありました三郷団地ですと、ＵＲさんと協力する形で多世代交流施設を作っていく話があります。もちろん、これらの施策で、爆発的な人口増を期待するわけではないですが、そこで住んでいる人の住み心地が良くなるなど、そこに魅力を感じて住んでいただけるような施策は、全体的に実施していく必要があり、第５次総合計画の中にちりばめられていければと考えています。 今日いただいたご意見などを参考にさせていただきながら、地域の拠点を魅力ある場所として作っていくことにより、今、人口が増えていない地域も、違う魅力が出てきて人口が増えていけばと思います。
副委員長	市民意向の中で、力を入れるべき分野で意向の多かった、医療体制の充実、公園緑地の整備、文化芸術の振興、国際交流の推進というのは、この施策の大綱の中でどこに位置付けられるのか伺いたいと思います。
事務局	医療体制については、施策の大綱のところでは、まちづくり方針７だと考えます。 公園に関しては、まちづくり方針４の都市基盤の充実か、緑ということで考えると、まちづくり方針３にも該当します。 文化芸術に関しては、まちづくり方針６の人が輝くまちづくりというところであると思います。 交流の部分に関しては、まちづくり方針６にも書かせていただいているのですが、市民参加とかを考慮しますと、経営方針の中の地域力の醸成とか、まちの魅力向上という部分にも関連すると思います。
深井委員	まちづくり方針５にある魅力的で活力のあるまちづくりということで、産業・観光・農業とあり、ここにも観光にも力を入れていこうというところではあると思うのですが、今だと市外の方々が三郷に遊びに来ようとか、三郷に行こうと思う一番強みになるものが少し弱い気がします。 そのため、新たなものを長期的に計画を立てていただいて、観光スポットや、ものでもいいと思うのですが、そういったものを作って三郷に行こうと、

訪れる人口を増やす、遊びに来る人を増やすという部分の力を入れていただいて、さらにそれが時代に合ったＰＲ方法で、計画をそれに伴って立てていったらいいのではないかと思います。

事務局　おっしゃった通り、三郷に遊びに来たい方がたくさん増えるような三郷の資源の発掘ですとか、産業の振興に対して取り組んでいくというのは、市役所としての業務だと思っています。どうもありがとうございます。

委員長　パワースポット的な場所があるといいのかなと思いますが。なかなか人工では作れないとは思いますが。皆さんで発掘をしていけるといいのかなと思いますが。

斉藤委員　新しいものを作ると言うよりも、既にあるものをいかに外にアピールしていくのかというところに、もう少し工夫をしていけるといいのかなと思っています。

私は８年前に三郷に越してきたのですが、一番最初にこの街がすごくいいなと思ったのは、屋外でスポーツができるところが多くあり、それがまた三郷駅の近くにあれだけ大きな競技場があって、なんでここをもっとプッシュしないのかとずっと思っています。

多岐にわたってブランディングのポイントを置くよりは、例えばスポーツならスポーツ。三郷はスポーツみたいな形で、一つに絞ったり、せっかく競技場もできたんですから、じゃあここに外部から研修するようなチームを誘致するとか。そのための宿泊施設を作るとか、そういう派生的なブランディング方策が練れると、いろいろなところに予算を投下しなくても、もっとピンポイントで三郷のブランド化ができると感じています。

もう一つ、まちづくりで子どもが笑顔で育ちというところで、中央地区に住んでいる身からすると、中央地区はすごく人口が増えているということで、子どもが放課後、過ごす場所が本当になくなっています。

早稲田の方であれば児童館があって、放課後、子どもたちがそこでお友達と遊ぶことができるけれど、中央は残念ながらそういう施設が全くなく、かつ児童クラブも満員なので、小学校３年生になると行けなくなってしまっています。

そうすると、街として子どもが育ちやすいとか、ファミリー世帯がいっぱい引っ越してくるようにと、いろいろやっている割には、環境がどうしても人口増に追い付いていないところがあると思います。

中央地区はこんなだけど、におどり公園に児童館みたいな施設を設けるとか、何か市としての、地域で子どもたちが安心して遊べるような、そういったところを並行して進めていけると、なお良いのではないかと思います。

今、放課後に過ごす場がない子たちは、みんな塾や習い事に行っています。すると、塾に行くと私立中学を受けませんか、という流れになるんですね。

そうなるとみんな市外に流出します。
　そうすると子ども時代を三郷市以外で過ごした子どもたちというのは、おそらく大人になってからも地元に愛着というのが薄くなると思います。
　長い目で見た時に、やはり地元で子ども時代を過ごした、放課後こういうことをして遊んだという思い出というのは、先々ずっと残っていって、それが何十年も経ってからまた戻ってくるとか、自分たちが住む拠点として子どもたちが選んでくれる街になるというところでは、本当に今がすごく大事な時期だと思います。

委員長　ありがとうございます。中央駅には交流センターができる話を聞いていますので、そこが地域の方々の交流の場になるといいなと思いますが事務局いかがでしょうか。

事務局（企画総務部長）　におどりプラザのお話が出ましたのでお話します。におどりプラザにつきましては飲食とかは入っているのですが、他にフリースペースがあったり、2階はほとんどフリーのスペースですので、ピアラシティ交流センターもそうですが、お子さんたちは別に集まって、児童館ではないですが、居場所としては十分に使えると考えています。
　入館しては駄目というわけではありません。ただ、学習スペースとかもありますので、例えばワイワイっていう感じではないかもしれませんけれども、簡単に言うと中学生ぐらいのお子さんでしたら、学習するスペースとしては、塾に行かなくても自習をすることは可能だと思います。
　もちろん、安全な居場所としても十分に使えると考えています。ただ、児童館ではないので、そこは少し考える必要があると思います。
　例えばこういう使い方は困るとか、市民の方からご意見が出てくると使いづらくなるので、節度をもって、みんなが理解し合える使い方であったり、行政がこうしたらというよりは、みんなが考えながら使っていってもらった方が、地域に根ざした施設になると思います。
　フリーのスペースの使い方については協議していく必要があると思います。開館は夏休みの後半になりますが、使いながらどうしたらいいかということを考えていければと思います。

委員長　スポーツに関しては、スポーツ健康都市宣言をしている三郷市ですので、入れていけると思いますがどうですか。

事務局　平成2年にスポーツ都市宣言をしていますし、ご意見をいただいたことについてはこちらでも検討課題とさせていただければと思います。

副委員長　委員長と事務局にお願いなのですが、今回含めて何回か集まる委員会があると思うのですが、それが全体のプロセスのどこの段階を今相談しているか

	がなかなか前回の資料を全部持ってくるわけではなくて、よく分からないので、その点を例えば簡単な1枚でも結構ですので、全体の中の今日はここですというのを毎回添えていただけますでしょうか。
事務局	おっしゃる通りだと思います。次回からご用意します。
委員長	議事は以上で終了させていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。では事務局にお返しします。
	4　その他
事務局	最後に事務局より1点連絡事項がございます。次回のまちづくり委員会は開催通知は改めてお送りしますが、8月20日火曜日の午後2時。市役所7階大会議室で予定しています。委員の皆様におかれましては、お忙しいことと存じますがご出席をお願いいたします。それでは閉会に当たりまして、副委員長より一言お願いいたします。
	5　閉会
事務局	それでは閉会のご挨拶を鳫副委員長にお願いいたします。
副委員長	第2回三郷市まちづくり委員会の閉会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。本日は長時間にわたりまして委員の皆様から貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。委員の皆様のご発言で、三郷市内にあっても地域によって様々な課題があるということがよく分かりました。今回まちづくり方針の中に、新たに子ども分野というものが位置付けられる方向と今日伺いましたが、同じ子ども分野についても、地域によっていろいろな課題があることも皆様のご発言で理解することができましたので、今後事務局で検討していただいて、次回以降の会議の準備に生かしていただければと思います。長時間にわたりまして誠にありがとうございました。以上、閉会のご挨拶といたします。
事務局	お忙しいところ、長時間にわたり大変お疲れ様でした。

上記内容について、相違ありません。

令和 元 年 8 月 20 日

委員長　豊田幹雄

署名委員　戸辺倫司

署名委員　深井刈子